中学校の教育旅行
最新リポート

社会や自然と向き合う中で

日本女子大学附属中学校
岩手、秋田、青森　3泊4日
10年9月　実施

奥入瀬の豊かな自然の中での観察学習

1901年の開学以来、日本の女子教育を牽引し続けてきた日本女子大学。創立者・成瀬仁蔵氏が唱えた「自念自動」の精神に基づき、幼稚園から大学院までの一貫教育の中で真の教養を備えた女性の育成に取り組んでいる。多摩丘陵の森を生かした閑静なキャンパスにある日本女子大学附属中学校（下村由紀子校長、全校生徒756人）も、明期から牽引し続けてきた日本女子大学。創立者・成瀬仁蔵氏が唱えた「自念自動」の精神に基づき、幼稚園から大学院までの一貫教育の中で真の教養を備えた女性の育成に取り組んでいる。多摩丘陵の森を生かした閑静なキャンパスにある日本女子大学附属中学校

國澤恒久教諭

このうち2年生で行うのが、3泊4日の「東北校外授業」。彫刻家・高村光太郎の妻・智恵子や、宮澤賢治の妹・トシが日本女子大の卒業生であることから、40年以上前から東北で校外授業を行っており、「本校が（東北での教育旅行に）先鞭をつけたとの自負はある」と校外授業担当の國澤恒久教諭は語る。

同校では3年生で新潟での農業体験など5コースに分かれて参加する選択校外授業を実施しており、2年生の校外授業に向け、実物に触れて学ぶ姿勢の育成を目的の1つとしている。そのため現地での班別行動は設けず、団体行動を基本に、現地ガイドらの説明や生徒自身の観察を通して学ぶスタイルを取っている。

昨年は、252人が参加。1日目に岩手県に入り中尊寺・毛越寺、高村光太郎山荘など、2日目に岩手・宮澤賢治記念館、八幡平、秋田・尾去沢鉱山など、3日目に青森・十和田湖や三内丸山遺跡など、4日目には岩手・啄木記念館などを見学するコースをとった。

中学生の校外授業としては郷土料理に触れる機会も豊富。例えば秋田では「きりたんぽ鍋」や、「津軽三味線」などの郷土芸能もじっくり鑑賞する。

「ハタハタの卵『ブリコ』を味わう。

実物に触れて学ぶ旅
「しおり」を活用し深化

毛越寺を見学

鹿踊りを鑑賞

きりたんぽ鍋を味わう

尾去沢鉱山を見学

八幡平での自然観察

同校では夏休みをはさんで10時間程度の事前学習を実施。国語などの教科学習の中でも東北校外学習の見学箇所などを意識したカリキュラムを組む。また、学年全体で各教科の特別授業なども行っている。昨年は出発前に「東北デー」と銘打ち、集中的に事前学習を行った。さらに生徒は、東北の「農業」「祭り」「郷土料理」などのテーマの下個人研究に取り組む。研究は夏休み中に大半を完成させ、旅行時の移動教室や宿泊先などで、見学課題や参考資料を旅程に沿った形でまとめた「見学ノート」に多くのページを割いているのが特徴。さらに見学の「農業」「祭り」「郷土料理」などのテーマの下個人研究に取り組む。研究は夏休み中に大半を完成させ、旅行時の移動教室や宿泊先などで、見学課題や参考資料を旅程に沿った形でまとめた「見学ノート」に多くのページを割いているのが特徴。さらに見学

同校では夏休みをはさんで10時間程度の事前学習を実施。国語などの教科学習の中でも東北校外学習の見学箇所などを意識したカリキュラムを組む。また、学年全体で各教科の特別授業なども行っている。昨年は出発前に「東北デー」と銘打ち、集中的に事前学習を行った。さらに生徒は、東北の「農業」「祭り」「郷土料理」などのテーマの下個人研究に取り組む。研究は夏休み中に大半を完成させ、旅行時の移動

外授業に厚みを持たせているのが、現地での教材「東北校外授業のしおり」だ。上野駅出発直後から行う「車窓見学」に始まり旅の締めくくりに行う俳句制作まで、見学課題や参考資料を旅程に沿った形でまとめた「見学ノート」に多くのページを割いているのが特徴。さらに見学

外授業に厚みを持たせているのが、現地での教材「東北校外授業のしおり」だ。上野駅出発直後から行う「車窓見学」に始まり旅の締めくくりに行う俳句制作まで、見学課題や参考資料を旅程に沿った形でまとめた「見学ノート」に多くのページを割いているのが特徴。さらに見学

業への関心も深める」（國澤教諭）。「鹿踊り」か、旅行後に中のバス内で発表するほか、旅行後に研究レポートとして提出したり、展示発表を行ったりする。

事前学習と共に東北校外授業のしおりの「本校の教育旅行に」先鞭をつけたとの自負はある」と校外授業担当の國澤恒久教諭は語る。

同校では3年生で新潟での農業体験など5コースに分かれて参加する選択校外授業を実施しており、2年生の校外授業に向け、実物に触れて学ぶ姿勢の育成を目的の1つとしている。そのため現地での班別行動は設けず、団体行動を基本に、現地ガイドらの説明や生徒自身の観察を通して学ぶスタイルを取っている。

昨年は、252人が参加。1日目に岩手県に入り中尊寺・毛越寺、高村光太郎山荘など、2日目に岩手・宮澤賢治記念館、八幡平、秋田・尾去沢鉱山など、3日目に青森・十和田湖や三内丸山遺跡など、4日目には岩手・啄木記念館などを見学するコースをとった。

中学生の校外授業としては郷土料理に触れる機会も豊富。例えば秋田では「きりたんぽ鍋」や、「津軽三味線」などの郷土芸能もじっくり鑑賞する。

「ハタハタの卵『ブリコ』を味わう。

業への関心も深める」（國澤教諭）。「鹿踊り」か、旅行後に中のバス内で発表するほか、旅行後に研究レポートとして提出したり、展示発表を行ったりする。

事前学習と共に東北校

語るのを裏付けるように、単純な設問に答える部分は少なく、見学、観察で得た情報を自分の言葉で文章にまとめるためのスペースが多い。見学ノートに自分なりの気づきを書き込んでいくことは事前学習の学びを深める事にもなり、「校外授業自体が教科の学習内容を総合化する事後学習の役目を果たしている」（國澤教諭）。

長年の経験と現地との結びつきを生かし、独自の校外授業を作り上げてきた同校だが、交通環境の変化への対応、時代に合わせた見学箇所の選定は継続的な検討課題だ。

また見学ノートの内容についても、「ただ見学課題を並べるだけでなく、気付いてほしい事柄に目を向けさせる、興味

語るのを裏付けるように、単純な設問に答えるのは少なく、見学、観察で得た情報を自分の言葉で文章にまとめるためのスペースが多い。見学ノートに自分なりの気づきを書き込んでいくことは事前学習の学びを深める事にもなり、「校外授業自体が教科の学習内容を総合化する事後学習の役目を果たしている」（國澤教諭）。

長年の経験と現地との結びつきを生かし、独自の校外授業を作り上げてきた同校だが、交通環境の変化への対応、時代に合わせた見学箇所の選定は継続的な検討課題だ。

また見学ノートの内容についても、「ただ見学課題を並べるだけでなく、気付いてほしい事柄に目を向けさせる、興味

を持たせる問いかけやレイアウトなどは、毎年工夫を重ねていかなければならないところ」と國澤教諭は強調する。「メモを取る力」の育成もさることながら、メモだけに終始せず、本物に触れることを通して、本質を感じ取る力を養う。そのような見学ノート作りを目指している。

今年の校外学習は、7月までは実施に向けた下見などを進めていたが、東電の原発事故の状況なども勘案して延期の判断を下した。「不安定な状況下で、保護者に参加不参加の判断を仰ぐのは混乱を生じると考えた。また、全員が参加しての校外授業の意義などを重視し、学校側で決めた」（國澤教諭）。

昨年参加した生徒からは、「東北の人は伝統芸能や文化をとても大切にしていて、後世に引き継がれていると感じた」など、北東北をぐるりと巡って環境や文化に直接触れたからこそ得られる感想が寄せられた。同校では状況が落ち着き次第、従来通り東北校外学習を実施したい考えだ。

社会とのかかわりから
自身を客観的に捉えるら

火之神公園の周辺海岸の清掃活動

国立大学法人 大阪教育大学附属 池田中学校
鹿児島県西南部　3泊4日
11年4月　実施

教員を養成する大阪教育大学の研究校である、大阪府池田市の国立大学法人大阪教育大学附属池田中学校（山川正信校長）は、大阪府下でも屈指の進学校だ。教育方針として①自主、自律につながる学びの基礎、基本の確立②確かな学力の育成③自他の文化の理解、共生の心の涵養――3つを掲げる。第3学年での修学旅行は、3年間の学びの集大成と位置付けて、京都研修次は「国際社会と自分」をテーマとし、京都研修

山戸正啓教諭

教育方針に掲げる自主自律を身につけることができるよう、『社会とかかわる』ことを目的にしている」と山戸正啓教諭は話す。

社会と自己のかかわりについては、総合学習の時間で生徒に深く考えさせてきた。1年次では「地域社会と自分」をテーマに自分の住む地域の歴史や文化を知る。2年次は、自己の客観視を目指し、職業体験などの社会参加実習、進路実習を通して、社会の一員としての自己を見つめる。

砂むし温泉を体験

さつまあげ作り体験

民家泊のようす、田植え

修学旅行の行き先は、薩摩半島を中心とした鹿児島県西南部。準備は2年次の秋から始めた。総合学習の時間に、平和学習として、鹿児島での太平洋戦争時の特攻隊などについて学んだ。平和への祈りを込めて千羽鶴も折る。鹿児島の歴史や文化、観光情報などについて調べ、それをまとめて1つの冊子も作った。

2年次の2月には、歴史や地理、自然を学びながら鹿児島のまちづくりを生徒に呼び掛けた。

修学旅行は今年の4月20～23日の3泊4日で実施した。参加したのは第3学年の全4クラス、160人の生徒。

初日は、飛行機で鹿児島入りし、まずは平和学習。知覧特攻平和会館で陸軍特別攻撃隊員の遺影や遺書、手紙、関係資料を見る。語り部から講和も聞いた。

バス移動で、戦艦大和の沈没50周年に建立された平和記念展望台のある火之神公園に。ここで地元の人たちから太平洋戦争の歴史や当時の状況などの説明を受けた。

さらに、修学旅行を受け入れてくれた現地への感謝の気持ちを表し、公

火之神公園で地元の人から説明を聞く（上）と記念植樹

目標、目的について話し合いもさせた。討論して決まった修学旅行のスローガンは「責任を持ち、前もって行動し、修学旅行を成功させる」。旅行先では民家泊やフィールドワークなど生徒だけで行動することが多いので、実行委員が中心になって普段以上に自律した活動を心掛けた。

3日目は、桜島観光、天然砂むし温泉、特産品づくり、芸術の4コースに分かれて、各体験をした。

最終日の4日目は、事前に班ごとに決めたテーマを鹿児島市内で取材するフィールドワークを実施。それぞれテーマに沿った目的の場所へ行き、人に話を聞いたり、現場で写真を撮影したり、置いてあるパンフレットなどの資料も入手した。

生徒たちは帰阪後、このフィールドワークでの取材の内容をまとめ、手づくりの新聞を1人1枚ずつ作成した。

山戸教諭は、「今回の修学旅行では、海岸の清掃活動や民家宿泊など、実社会の中で自分を見つめる行程を取り入れた。その結果、民家泊では宿泊先の地域性を学ぶとともに、どのエリアでも積極的に民家のお手伝いをすることで、人と触れ合い、深い交流ができていた」と語る。自主自律や社会性を養うという目的は十分に果たした。

学習旅行は、オールシーズンで
体験できる志賀高原・北志賀高原へ!!

志賀高原・北志賀高原は、スキー学習旅行の受け入れの歴史が古く、全国トップのご利用をいただき、オールシーズンで充実した学校生活形成の一端を担わせていただいております。

大都市及び周辺では得られない豊かな環境を生かした、安心で安全な自然体験学習ができるよう引き続き努めてまいります。

■志賀高原「日常を忘れ、大自然を心から満喫。」

志賀山・横手山・岩菅山など 2,000m級の山々を控えた自然の宝庫、志賀高原。大小 70 余の美しい湖沼や湿原が点在しています。

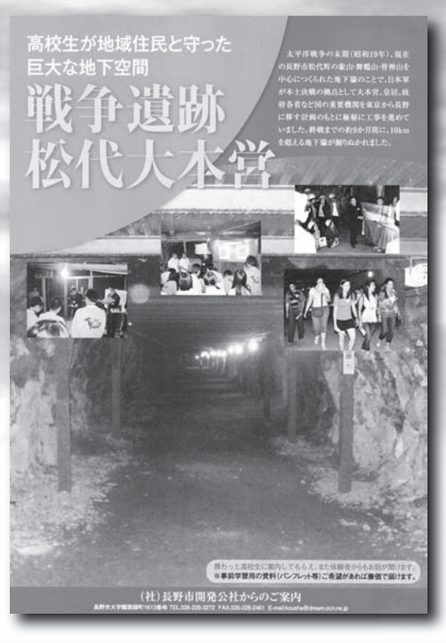
「池めぐりコース」や「やまびこコース」など全 18 あるトレッキングコースでは、手軽に雄大な自然に触れることができ、自然環境学習に最適な高原です。

■北志賀高原「美しい自然と素朴な山里が心を癒す。」

標高 1,930mの竜王山、別名「高井富士」と呼ばれる高社山の山麓に広がる大自然は、さまざまな花や高山植物が可憐な姿を見せてくれます。さわやかな風が流れる豊かな山里は、果樹園や田園が広がり、素朴であたたかな伝統に触れることができます。

お問合せ　長野県学習旅行誘致推進協議会
山ノ内町支部　事務局
TEL：0269-33-1107　FAX：0269-33-1104
http://www.gakushukyo-y.net
〒381-0498　長野県下高井郡山ノ内町大字平穏 3352-1

毎年2800校以上にご来県いただいている
信州・長野県への学習旅行は



お問合せ・資料請求先
財団法人ながの観光コンベンションビューロー
〒380-0835　長野市新田町1485-1長野市もんぜんぷら座4階
TEL:026-223-6050　FAX:026-223-5520
http://www.nagano-cvb.or.jp/
社団法人長野市開発公社
〒380-8512　長野市大字鶴賀緑町1613番地
TEL:026-226-3272　FAX:026-228-2461
http://www.n-kaihatu.com/

お問合せ・資料請求先
長野県学習旅行誘致推進協議会 事務局
TEL:026-238-9670　FAX:026-232-3220
E-mail:gakushu@nagano-tabi.net
http://www.naganoken-gakushuryoko.net
〒380-8570（住所不要です）
長野県庁東庁舎2階 長野県観光協会内